

I 実践

1 研究主題

自他の立場や気持ちを考え、思いやりの心を育てる人権教育の在り方
～豊かな体験活動と心の教育の充実を通して～

(1) 主題設定の理由

本校児童は、明るくのびのびとしており、休み時間になると外で集団遊びを楽しむことが多い。地域の交流センターも学校教育活動に大変協力的で、お年寄りも含めた様々な年齢層の方々との関わる機会も多い。しかしながら、通常の学級において、特別な支援を必要とする児童の割合も多く、相手の良さを認めながら互いに支え合うとともに共感的な学級の雰囲気作りについては、課題がある。また、思いやりの気持ちを持つことの大切さについては、十分分かっているものの、実践とまでには至っていないのが現状である。

そこで、心の教育の充実を図るとともに、児童一人一人がいろいろな人とふれあったり、直接的に体験したりすることで自分や他の人々を大切に思い、一人一人がかけがえのない存在であることや尊重し合うことの大切さについて実感し、そこから思いやりの心が育てられると考え、本主題を設定した。

(2) 研究の内容

- ・豊かな体験活動を通して思いやりの心を育てる
(異学年交流・幼小交流・地域の人たちとの交流・居住地校交流・福祉体験)
- ・道徳や学級活動、総合的な学習の時間を通して心の教育の充実を図る

2 研究実践

(豊かな体験活動を通して思いやりの心を育てる)

(1) 異学年交流(縦割り班活動)

「異学年の仲間と関わりながら、コミュニケーションを図り、思いやりや社会性を身につける。」ことや「仲間づくりのできるリーダーの育成を図る。」こと等をねらいとして、水曜日のロングの休み時間を利用して縦割り班遊びを実施している。

計画委員会と6年生を中心にして誰もが楽しめる遊びの計画を立て、毎月1回行っている。回を重ねるごとに高学年が低学年に寄り添ったり、やさしく手助けをしたりする姿が見られるようになってきた。「ありがとう」という言葉に自己有用間や自己肯定感が高まり、縦割り班活動をこえて、更なる活動への意欲づけとなった。

(2) 居住地校交流

「様々な交流学习を通して、互いに認め合いともに生きていく態度を養うと共に、社会性を伸長する。」ことや「同じ居住地の同年代の児童と一緒に学習する機会を設け、障害や個性に対する理解を深める。」ことなどを目的として居住地校交流を実施している。今年度は1学期に1回、2学期に2回の計3回実施し、交流を深めた。昨年度から行なっており、子どもたちは交流を楽しみにしている。音楽や国語の学習を通して、互いに認め合う場面が見られ、楽しく交流がはかれた。

(3) 様々な体験活動の様子



【縦割り班活動】



【幼保小交流】



【福祉体験】



【職場体験】



【地域の方々との交流】



活動を通して相手に気持ちよく過ごしてもらうための言葉遣いやあいさつ、気配りなど多くのことを学んだ。

(道徳や学級活動、総合的な学習の時間を通して心の教育の充実を図る)



子どもたちに相手の立場に立って考えたり、相手を思いやることの大切さを考えさせたりするために、自作資料を作成した。地域素材を使っ
ての資料は子どもたちの興味関心を高め、自分たちも地域のためになることをしようという道徳的な実践力へと高まりをみせた。

また、自己決定の場を設け、自分の考えを発表するという場面では、子どもたちがそれぞれの思いを素直に表現することができ、聞き手も共感的な態度で耳を傾けることができた。

4 研究の成果

- 異学年が一緒に遊んだり運動したりすることにより、高学年は低学年に寄り添い、面倒を見ることで思いやりの心が育ち、低学年も優しく遊んでくれるお兄さんお姉さんに親しみや感謝の気持ちをもって接するようになった。体験を通して様々な人との関わり方を学び、自己肯定感や自己有用感が高まり、更なる活動意欲へとつながった。幼小交流・地域の人たちとの交流・居住地校交流・福祉体験などの体験活動を通して、助け合い励まし合い認め合う心やだれとでも仲良く遊ぶことの良さを実感することができた。
- 障害のある児童と一緒に活動することで、多くの学びが得られた。障害に対する理解を深めるとともに、互いに助け合っていこうとする気持ちを育むことができた。また、サポートする教師側にとってもインクルーシブ教育の観点を再確認する良い機会となった。
- 道徳や学級活動、総合的な学習の時間において、人権に関する資料を扱ったり、自作資料を作成したりして、横断的に心の教育を行なうことで、自他の気持ちを考え、相手を思いやる気持ちの高まりが見られた。自己決定の場を設け、他者に対して自分の考えを説明する活動を取り入れることで、互いに相手の考えを尊重し、揺れ動く自分の気持ちを素直に表現できる児童も見られるようになった。自他の思いに気づくことで、人権についての意識が高まってきた。

II 今後の課題

人権教育への取り組みは意識して行っているが、まだまだ実践に関しては十分とはいえない。児童一人一人が自己有用感や自己肯定感を高め、互いに認め合い高め合い、安心して学習や日々の活動に取り組めるよう、職員研修を行って、人権教育を推進していきたい。さらには、地域や家庭への啓発を充実させ、学校・家庭・地域が一体となって児童一人一人の豊かな感性の涵養を目指して取り組んでいきたい。